

受賞の喜びを市長に報告

～^{はやて}颯太鼓「第8回日本太鼓ジュニアコンクール」受賞報告～

4月3日(月)、『第8回日本太鼓ジュニアコンクール』(日本太鼓連盟主催)に初出場し、特別賞に輝いた颯太鼓のメンバーが市役所を訪れ、上野市長に受賞を報告しました。

このコンクールは、子どもたちの健全育成や日本太鼓の後継者育成を図ることを目的に、毎年開催されています。

今年のコンクールは、3月19日(日)に長野県松本市で行われ、全国各地から予選で選ばれた41チームと海外から1チームの計42チームが出場。颯太鼓からは、幼稚園児から高校1年生までのメンバー18人のうち、小学3年生から高校1年生までの14人が参加しました。

颯太鼓は、道南代表として、課題曲『^{はばたき}飛翔』と自由曲『颯』を披露。メンバーは、緊張しながらも、元気いっぱい演奏し、会場を埋めた観客から大きな拍手が送られていました。

コンクールの結果は、特別賞の長野県教育委員会賞を受賞。道内から出場した4チームでは唯一の受賞で、メンバーは、コンクールの様子や今後の目標を交えながら、喜びを上野市長に報告していました。



▲受賞の喜びを市長に報告する颯太鼓の皆さん

交通事故に気をつけて



～新入学児童に対する交通安全啓発運動～

4月7日(金)、登別小学校で『新入学児童に対する交通安全啓発運動』が行われました。

この運動は、新1年生が交通事故に遭わないよう交通安全の啓発をすることを目的に、小学校の入学式に合わせて毎年開催されています。

今年の会場となった登別小学校の玄関前では、市や室蘭警察署、登別市交通安全協会などから約70人が啓発運動に参加。9時30分ころから、真新しいランドセルを背負った新1年生42人が保護者と一緒に登校すると、参加者は交通安全の呼びかけや記念の学用品・パンフレットが入った封筒を手渡し、受け取った新1年生は思わぬプレゼントに笑顔を見せていました。

市内の各小学校の新1年生は、少子化の影響により年々減少。本年度は合わせて415人で、昨年度より23人減っています。

期待を胸に399人が入学

4月13日(木)、日本工学院北海道専門学校で入学式が行われました。

今年で25回目となる入学式には、道内外から新入生399人が期待を胸を膨らませ、式に臨みました。

式では、中川校長が「焦らず努力し、専門分野の基礎力と充実した人生を送るための基礎力を身に付けてください」とあいさつ。新入生を代表して、行政学科の石井温子さん(室蘭栄高校卒業)が「わたしたちは、これからの2年間を、それぞれの目標を達成するために、また、将来への足がかりをつくるために、一生懸命勉強に励みます」と力強く決意を述べました。

～日本工学院北海道専門学校入学式～

